

NPO 法人

第53号

# 芦安ファンクラブ通信

南アルプス地域の自然を愛するすべての人達に対して、地域の人々との交流を通じた南アルプスの環境保全及び適正利用に関する事業を行い、もって、南アルプス市芦安地域の活性化に寄与する。～芦安ファンクラブの理念～

特定非営利活動法人芦安ファンクラブ 事務局 南アルプス市芦安芦倉 1589-8 大滝要造

TEL 055-288-2531 FAX 055-288-2533 HP <http://ashiyasu.com> Mail [afc3193@nus.ne.jp](mailto:afc3193@nus.ne.jp)

## 環境大臣表彰を受けました

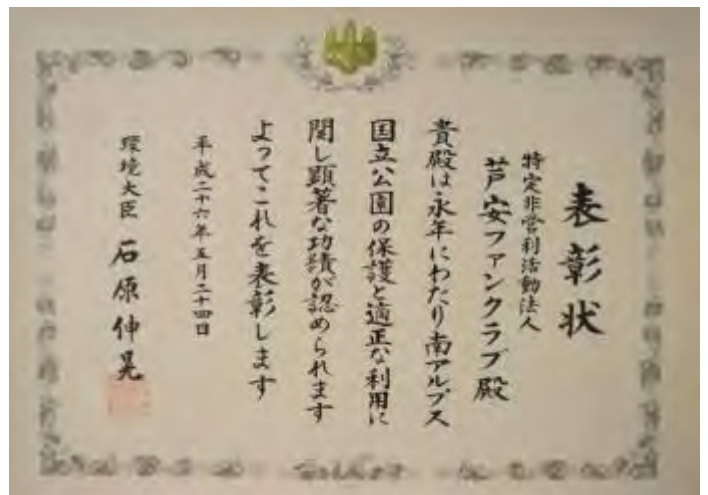
この度、芦安ファンクラブが自然公園関係功労者環境大臣表彰を受けることとなり、5月24日(土)に長野県伊那市で行われた南アルプス国立公園指定50周年記念式典において表彰式が行われました。また、山岳遭難防止「大久保基金の会」、昭和大学北岳診療部などが南アルプス国立公園関係功労者特別表彰を受けました。

### 自然公園関係功労者環境大臣表彰を受賞して

芦安ファンクラブ会長 花岡利幸

特定非営利活動法人芦安ファンクラブが平成26年度自然公園関係功労者環境大臣表彰を受賞したことは大変喜ばしいことです。芦安ファンクラブの発足は1991年1月ですから今年は発足23年目になります。

ファンクラブの活動は南アルプスに登る楽しみとそこから受ける恵みに感謝し、その恩恵に対し、自然を守り活用することを通じて山にお返しをする行為であります。そのことが麓のまちにも繁栄をもたらします。これがエコパークのあり方だと思います。都市生活が主体の現代人も自然なしで生きていくことはできません。その自然の究極に属するところが南アルプスであり、身近で生活する会員の皆さんは高山に関わることを生活の一部とされている。しかも、それを苦しみではなく楽しみとしてやっている。そこにファンクラブ活動の特徴と長続きのする所以があります。この度の表彰はその活動に対する受賞であり、その価値が公に認められたことを意味します。感謝の限りです。



表彰式の様子

## 南アルプス国立公園指定50周年記念式典に参加して

芦安ファンクラブ 清水 毅

我が芦安ファンクラブが環境大臣表彰を受ける事になり、代理人として5月24日に伊那市で行われた式典に参加して来ました。

全国から選ばれた23の組織や個人に混じって、「自然公園の保護・事故防止等に尽力」が理由の受賞は、我がFCにとっても最もうれしい事ではないかと思われました。

記念式典(表彰式)レセプションと続き、午後からの会場でのミニコンサート  
長谷小学校の子供たちによる合唱「讃歌―長谷」は澄んだ歌声とはつらつとしたメッセージに、思わず感激の大拍手でした。



あとは、市毛良枝さんの「山なんて嫌いだった」と題しての講演と、「南アルプスの未来」のトークイベントへと進み、市毛さんの山ガールを脱皮して登山家の風情をも感じさせる話に引き込まれました。

会の全体を眺めると、山に関する色々な立場で活躍しているすごい人達がまだまだいっぱいいるのを感じ、非力な自分が場違いな思いになりました。

また、自分は南アルプスを山梨側からしか意識していない事に気づき、長野や静岡からのアプローチや熱い思い、地元としての山を讃える文化等が息づいているのを今さらながら感じました。駒ヶ岳の呼び方も、西や東でなく本来のきちんとした呼称を徹底させて欲しいものだ、なんて事を考えながら帰って来ました。

## 南アルプス国立公園指定50周年特別表彰受賞に想う

山岳遭難防止「大久保基金の会」 会長 清水 准一

それはこの春でちょうど16年前のことになる。南アルプスをこよなく愛した若者が平成10年5月に北岳で消息を絶った。警察や地元山岳関係者、山仲間たちの十数回にも及ぶ懸命な捜索にもかかわらず、わずかに平成11年11月山梨県警のヘリ「はやて」によってザックが発見されるに留まっていた。平成12年8月5日、ようやく小太郎沢支流で遺体の一部が発見され収容された。遭難発生以来、高齢な為北岳に登る事の出来ない若者の御両親は、足繁く広河原に通い、北岳に眠っているであろう我が子の姿を追い求めて涙し、捜索が行われる度に参加者全員に挨拶され、更に丁寧な礼状で感謝の念を表して下さった。

この姿に感動した地元山岳関係者らが「大久保基金」を設置した。その目的は、山で逝った我が子に対する限りない親の愛情を永く南アルプスの歴史に残し、南アルプス北部山岳地域における遭難事故を未然に防ぎ、また不幸にして発生した時には迅速かつ安全に捜索・救助・収容活動を行えるように経費の一部または全部を賄い、山岳遭難防止に貢献する事だ。その後、「遭難救助活動に充当してほしい」とご両親から尊い御厚志も加算されて、この地域にもっとも欲しかった民意の山岳遭難対策組織が出来上がった。

発足以来、地元南アルプス署との強い連携をとりながら年末年始、5月GW、開山時、初秋の凍結期には欠かさず、各登山口で登山者に安全登山啓発活動に務め、シーズン中

に起こる山岳遭難に対しては、最前線で活動している山小屋の会員を中心に救助活動や捜索活動を実施している。それは四季を問わず、昼夜をもちとわれない命との関わりになることも少なくない。そんな活動を長く続けてきて、不幸にも山で逝ってしまった方や消息を絶ってから未だ見つからない方への想いにはいつも胸を痛め、二度と起きてほしくない強い衝動にかられてならない。しかしそんななかで、一度の二重遭難もなく、もちろん会員にもけがひとつなく今に至ってきたことは唯一心の救いでもある。

この度南アルプス国立公園指定50周年特別表彰受賞の栄誉を賜り、山岳遭難対策の為に地域としての立場で活動してきたことがこのように評価されたことはこの上ない喜びであり深く感謝申し上げたい。同志である仲間ともに喜びを分かちあい、この栄誉を励みとしてなお一層研鑽を積み、今後の活動に精進していきたい。

本年は前記のように記念すべき年であり、ユネスコエコパークへの登録の期待が大きい中で、山の日制定や間ノ岳の標高修正(第三位)などで北岳を中心に入山者も多くなることが予想される。入山者自身が自分にふさわしい山を選び、山に見合った技術、体力、知識を備えて登るならば、きっと南アルプスの素晴らしさを楽しく安全に満喫できることだろう。今年の山々がおだやかなにぎわいをみせてくれるよう切に願います。

# ☆ イベントレポート! ☆

## 4月26日(土) 芦安アウトドア日和 in キャンプサイト No.2

芦安の若者たちが、使われていなかったキャンプサイトを整備して行われた今回のイベント。南アルプス市出身のアーティストによるコンサートやアウトドア体験コーナー、アウトドア用品やおいしいものの出店など、盛りだくさんでした。キャンプサイトNo2は、芦安市営駐車場(第3)下にあります。バーベキューもできますので、ぜひご利用ください!



フルートとホルンのユニット「ウラココ」



会場にはアウトドア用品の展示も!

## 5月11日(日) 第4回南アルプス芦安新緑やまぶき祭

第4回となった芦安新緑やまぶき祭。当日はその名にふさわしく、新緑がまぶしい快晴となりました!会場には朝から多くのお客様が訪れ、おそばやうすやきなど地元の味を堪能し、ステージで繰り広げられる歌や演奏を楽しんでいました。なんと1200人もの方が来てくださったそうです!

芦安ファンクラブのクライミング体験コーナーには、ちびっこ達が押し寄せ、スタッフは休む暇もなかったとか。甲斐犬コーナーのワンちゃんたちも接客に大忙し。今年も大盛況のうちに幕を閉じました。また、来年もお楽しみに♪



会場は大賑わい!!



今年も、子ども達に大人気でした!



芦安原産の甲斐犬  
天然記念物です☆



また来年、  
お会いしましょう!

ライチョウさんには会えなかったけれど…

# 楽しんでできました♪登山教室！

5/31(土)~6/1(日)、第34回芦安登山教室が行われました。1日目は、夜叉神の森から南御室小屋へ。2日目は、南御室小屋から薬師岳、観音岳へ。2日間とも快晴とても気持ちのいい山歩きができました。南御室小屋では、廣瀬和弘さんよりライチョウの生態や現状について詳しく教えていただきました。参加者の皆さんに感想をお聞きしました！！

竹縄美幸緒さん（東京都）

雪道に不安がありましたが、2日間たくさん歩いて少しは歩き方が上手になってきたかなと思います。2日間いい天気で、ライチョウの姿は見られなかったけれど、ライチョウの勉強ができてとても楽しく有意義な時間を過ごせました。

小泉初恵さん（神奈川県）

今回はハンディもあったので、ファンクラブでなければこれだけの道は歩き通せなかったと思います。登山教室に参加してきて、一番いいと思うのは、山とのお付き合いの仕方、山に対する向き合い方の幅が広がることです。ただ、高い所へ行くだけではなく、山を豊かに知ることができるようになるのがいい所だと思います。

松岡幸子さん（神奈川県）

体力がないのでついて行けるか心配だったのですが、スタッフと一緒に行かれた皆さまのおかげで高山病の時も助けていただいて、今回はいろいろ勉強になりました。そしてとても楽しかったです。こんな安心な登山ができるとは思っていませんでした。



夜叉神峠で昔の写真と見比べてみました

松岡孝昌さん（神奈川県）

天気に恵まれて、とても良かったです。まだ北岳に行っていないので、行ってみたいと思いました。ライチョウのお話などとても興味深く大変楽しく過ごさせていただきました。

藤田京子さん（神奈川県）

登山教室で鳳凰山へ行くのはたぶん5回目だと思いますが、台風で引き返したり、私の体調不良で途中で帰ってきたりと色々なことがありましたが、5回目にして天候も良く、ライチョウも拝めるかもと期待を持って行くことができ、とても楽しい2日間でした。



南御室小屋でライチョウ講義



途中、日本を代表するトレイルランナーのヤマケンこと山本健一さんにお会いしました！！



薬師岳から観音岳へ。ライチョウのふんを見付けました！

関根松三さん（埼玉県）

鳳凰山は初めての経験でした。今回はキタダケソウを見に行けるかどうかの関門だと思っていましたが、雪の中もかなり歩けたので、またぜひお世話になりたいです。7月には日本で一番高い所から富士山を見たいと思います

小林圭一（埼玉県）

何年か前の大雨の北岳に参加して、スタッフのマネジメントに感激しました。大雨の中を登り切って無事に下山することができたということで、その時に、安心して紹介できるファンクラブだと思い、周りにも勧めています。

岡野芳洋さん（山梨県）

栗沢山、甲斐駒と参加してきましたが、私にとっては、2日間歩くということが初めてでした。これだけ長く歩くためにはやはり周りの人のサポートが必要だと思えます。今回は安心して歩くことができました。この年になってからですけども、これからも進化していければと思っています。また次もよろしくお願いします。

中川知美さん（東京都）

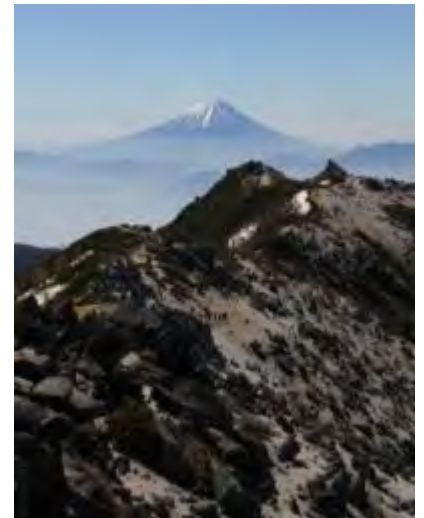
小林さんに誘われて、昨年甲斐駒に初めて参加しました。今回も、スタッフの皆さまの力というものがすごいなあと感心しました。また機会があればよろしくお願いします。

一瀬等さん（山梨県）

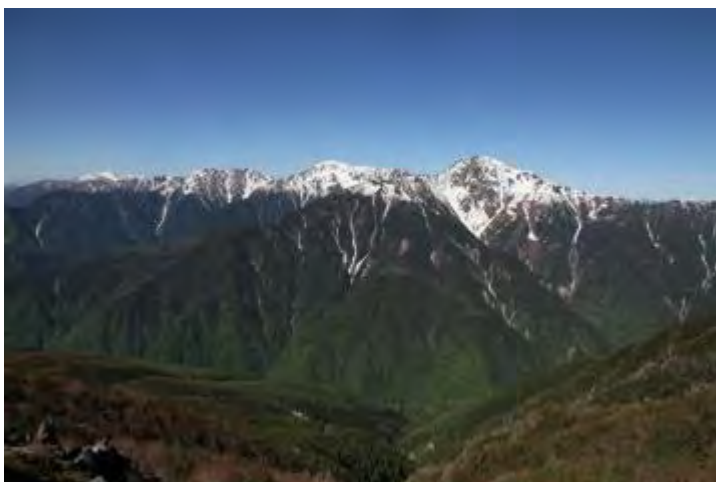
今回初めて登山教室に参加しました。鳳凰山は高校1年の時に登って、50年ぶりに登りましたが、本当に感激しました。ありがとうございました。

原本裕子さん（神奈川県）

2日間天気に恵まれて、本当にいい山歩きができました。すばらしい景色が見られて2日間幸せでした。ありがとうございました。



観音岳直下より薬師岳と富士山



稜線より白峰三山 いよいよシーズンです！



楽しい時間をありがとうございました！

# 【連載】私と「山」と

山を愛し、山とともに人生を歩んでいる井口功さんのインタビューも、第4回目となりました。世界の山々に挑んできた井口さんですが、日本の山も数えきれないくらい登っていらっしゃいます。今回は、鳳凰三山・白峰三山の思い出と最近の登山についてお話をうかがいました。

今回は私たちにも身近な山をテーマに、お聞きします。身近というとはやはり、白峰三山や鳳凰三山ですが…。

鳳凰三山へ初めて登ったのは、高校1年の秋でした。八王子から一番の下り列車に乗って甲府からはバスで芦安へ、そして幌のかかったトラックで夜叉神の森まで行ったのです。トラックは往復はがきで岩園館に頼んで手配してもらいました。それが、私の南アルプス登山のはじまりでした。その時は、南御室小屋でテントを張り、翌日三山を縦走し、ドンドコ沢を青木鉱泉に下りました。さらに平川峠を越えて穴山駅まで長い長い歩きでした。今では考えられませんね。それ以来、記録が残っている27歳から今日までで、鳳凰三山には62回登っています。鳳凰は南御室小屋の小林さんとの関わりがあって、しょっちゅう小屋に遊びに行っていました。山崎という後輩が学生時代に小林さんのところでバイトしていた縁もあって。そんなふうにして、ルートは色々、季節も四季に渡り、思い出深い山行を積み重ねています。

**厳冬期の白峰三山に初めて登ったのは、何歳の時だったのですか？**

厳冬期の白峰三山には、高校2年の暮れから正月にかけて北岳に登りました。これが私の白峰三山の厳冬期登山の始まりでした。この時は、大変つらい体験をしました。私たちがアタックの為、暗いうちにテントを出発し、後輩がテントキーパーとして残ったのですが、なんとテントの中のローソクの火を消し忘れて、短くなったローソクが下にあった私の寝袋に落ちて大方燃えてしまったんです。幸い先生や先輩たちは他のテントだったので、火事騒ぎを知られることもなく、私たちは怒られずに済んだのですが、その夜はシュラフカバーだけで寝る羽目になって。寒さでほとんど眠れず、大変つらい思いをしました。

そこから井口さんの冬山が始まったわけですね。それにしても、冬山、と聞くとどうしてそんな辛い思いをして過酷な登山をするのか、と思う人も多いと思いますが…。

登山をやっている基本的な考えとして、より困難なルートに登りたいという思いが私にはあります。夏には沢登り（野呂川の右俣・左俣、荒川の北沢・南沢、農鳥沢、細沢、本谷など）をしたり、バットレスを何回も登ったりしました。私にとって冬山は、その1年間の集大成なんですね。北岳には吊尾根から、間ノ岳には弘法舎屋尾根、尾無尾根から、農鳥岳には北東尾根、大唐松尾根から登りました。冬山をやりたいというのが僕の登山の最大の目的だったんです。毎年それを目標に、毎日のように走って体力づくりをしていました。

また、当時は、登ることに全精力を使っていたので、カメラを持っていかず、写真が残っていないことが今となっては残念ですね。



冬の北岳

### 冬のルートで気に入っているところはありますか？

白峰三山の厳冬期のルートで一番魅力的なのは、間ノ岳の弘法舎屋尾根です。間ノ岳に突き上げる尾根で、大変気に入って3回行きました。北岳の吊尾根を登っていて隣に見える尾根で、最終的に間ノ岳の頂上直下の斜面に消えてしまうんですが、そこところが結構難しいんです。吊尾根はよく登られるルートだけど、登っているとその隣にこの尾根が見えるのが良い。それに人がほとんど行かないってのいうのが好きですね。

最初に弘法舎屋尾根に冬に入ったときは4人で行きました。今とは全く違って、山梨大学の記録ぐらいしかなくて、部報とか岳人の古いのとかをあさって調べて。大変でしたね。30キロくらいの荷物を背負っていったけれど、その当時はそのくらいは何ともなかったですね。

3回目に行った時は、山梨の連中と行って、間ノ岳直下の窪地にテントを張って正月を迎えました。その時のことは克明に覚えていますよ。若いころからずっと、暮れから正月にかけて登っていたから、正月を家で迎えることはなかったんです。最近になって里で正月を過ごすようになって、里の正月ってこんなにいいものだったかと感じますね。美味しいものはたくさん食べられるし、お酒もたくさん飲めるし、自分は今まで何をやっていたんだろうと思っていますよ(笑)。

### 最近、どんな山登りをしているんですか？

今はもっぱらピークハントをしています。新しい山へ年間100日は登ると自分で決めています。去年は膝を痛めてしまって、なかなかその通りには行けないけれど、それが目標なんです。今年の冬は伊豆ですごくいい山に登りました。冬は伊豆に行くことが多くて、あと少して伊豆の山もすべて登ることができます。そのあとできれば静岡100名山をすべて登りたいですね。今57登ったので、あと43山です。でも、まずは群馬100名山かな。あと10山なんです。それから新潟100名山も。岐阜もぼちぼちね…。今年の夏は北海道に行きます。北海道100名山は39登っているの。今年18山登ることを目標にしています。

あと、信州100名山はもう登ってしまったんですけどね。実は今年、「信州ふるさと120山」という本が出たんです。それを見たらまだ登っていない山がまだあるんだな、と思っていたら、今度は「信州260山」という本が出て。こりゃまた増えたなあと思いましたよ。

一番行った時は197日。その時はさすがに女房に怒られましたけど。

### もちろん、山梨100名山は終了しているんですよね？

はい、あと日本100名山も終わっています。

### ところで…、何度も同じ山に登って、飽きる、ということはないんですか？

僕は、山に入っていればいいんです。どこでもいいんです。それから同じ山に登っているときは、比べるんですよ。昔の自分と今の自分を。昔のここはこのくらいの速さで登れたんだなあ。今は体力が落ちたなあと感じます。でも、今は今のペースでいいんですけどね。

最近私が見直しているのは奥秩父ですね。金峰、瑞牆、甲武信…、あの樹林帯の苔むした感じがとても好きです。ここところはしょっちゅう行っていますよ。

私は前もって年間の計画を作るんですね。で、それをこなす。さらに、来年、再来年の目標も立てていく、というように長い目で考えることにしています。ずっと昔からこんな感じで生きてきたもんですから、そのあたりのところは今でも変わらないですね。これからも年間100日登山を目指して山と関わって生きていきたいと思っています。



2012年瑞牆山登山教室にて(一番左が井口さん)

# ！新入会員紹介！

たなか たかひろ  
田中 貴浩

神奈川県横浜市出身 24 歳、身長 186cm の田中貴浩です。趣味は登山、溪流釣り、旅行で特技は大道芸(ジャクリング、ディアプロ)です。一言で言えば、山バカ！釣りバカです!!暇さえあれば、山や川に行っています。V(^\_^)V

さて、私が芦安に来たきっかけをお話しします。小学時代不登校だった私は新聞記事に芦安村営の山村留学施設チロル学園の記事を目にしました。もともと自然が好きだったこともあり、両親にお願いし縁あって芦安村営南アルプスチロル学園に入園しました。

山登りに目覚めたきっかけ！チロル学園は、学園内で日常生活をし、芦安の小中学校に通い、学校行事や部活動なども通常に行います。私が人生最初に登った山は、南アルプス仙丈ヶ岳 3033m です。芦安中学校の夏季行事で毎年登山教室があり、清水准一さんを先頭に出発。しかしその日は爆弾低気圧の影響で大雨に強風と最悪なコンディション、北沢峠から登り仙丈小屋泊。翌日に登頂のスケジュール！登山道はまるで川！ザーザー降りの大雨でテンションも下がり最悪。翌日も悪天候でしたが准一さんの判断で無事登頂☆初めての登山、イメージとしては最悪でしたが、「最悪を一度味わえば、その先はきっと最高だよ!!」と准一さん。その一言が登山に目覚めたきっかけでした。

芦安ファンクラブに入会した理由。あれから10年。中学卒業後、地元の農業高校を卒業。北海道の大学で農業と自然環境の勉強をし、その後はワーキングホリデービザを取得してニュージーランドへ！そして今、社会人となり芦安との関わりが減ってしまったこの機会に芦安ファンクラブに入会してボランティア活動や登山教室、登山道の整備などできる限り参加。また、登山ガイドや猟の資格などの取得し、将来はNPO 法人芦安ファンクラブの一員として芦安で働ける日を目指して活動に取り組んでいきたいと考えています。

経験も浅く山の知識も少ないですが、どうぞよろしくお願いします。



ふかさわ ゆうじ  
深澤 祐二

はじめまして。この度、南アルプス芦安ファンクラブに入会させて頂きました深澤祐二と申します。南アルプス市は旧甲西町の荊沢に住んでおります。山登りは初心者ですが宜しくお願い致します。

今年は南アルプス国立公園指定 50 周年ということで様々な行事が計画されておられますが、指定を受けた 1964 年は私の生まれ年でもあります。50 歳に近づくまで全くと言ってよいほど山登りなどには興味をもってはおらず、澄んだきれいな空気よりも焼鳥屋の青く甘い煙を好む生活を長らく続けて参りました。しかし、昨年 6 月の芦安ファンクラブ登山教室に参加したのをきっかけに、地元の自然や文化に興味を持つようになって参りました。

私は土木資材のメーカーで営業職に従事しております。県外へもしばしば出かけますが、その折、住所が南アルプス市の名刺を差し出すと、山のことを色々話し掛けられることが多々ありました。「南アルプスが一番好きだね…」「先週、駒ヶ岳に登ってきたよ…」などなどです。皆さんが楽しそうに話をしてくれるのを聞いていると、地元に住んでいながら南アルプスのことを何も知らない自分自身が残念に思えてきました。

そして思い切って申し込んだのが今年のキタダケソウ観察会でありました。雪上歩行には少々ビビりましたが、山小屋に着き、頂に雪を被った北岳山頂を拝み見たときには体に熱いものを感じました。本当に。観光で屋久島や熊野古道などを歩いてみましたが、南アルプスの山には何処にも無い瑞々しさを感じます。こんな身近にこんな場所があったのか。感動は今も続いています。

南アルプスも今年の 6 月にはユネスコエコパークに登録される予定だそうで、このような年に芦安ファンクラブに入会できたことも縁であると嬉しく思っております。自然の保護と地域の発展を楽しみに、これからも南アルプスの山を味わって行きたいと思えます。大したことはできませんが、宜しくお願い申し上げます。

